

黒石市の中心街といえは「こみせ」を有する中町の歴史的な建物群が有名である。しかし、中町以外にも魅力的な空間がある。

黒石藩の陣屋が置かれていた内町には、貴族院議員の加藤宇兵衛が築いた「金平成園」がある。戦後は料亭として使われ、その後建物が老朽化し庭園が荒れかけていた。近年、所有者と市や関係者の協力を得て庭

園が修復され、建物も建設当初の形に復元された。

官庁街である市ノ町には南津軽郡役所や黒石町役場が置かれた。郡役所だった建物は郡制廃止後に町役場となり、市制施行後は市役所や黒石商工会館などに使われた。最終的には解体されたが、実は建物の一部が改築され、黒石病院近くの民間業者の敷地内に残されている。



元町の佐藤酒造とこみせのある空間
=2014（平成26）年4月19日・筆者撮影

横町は市ノ町の銀座通り商店街と並び、戦後から高度経済成長期前後にかけて大変にぎわった。ソフニ書店、ストゼンのゲタコ（下駄屋）、七兵衛サマ薬局など、個性溢れる商店が多数あった。食料品店のま

るよしは、後に日用雑貨を幅広く揃え、スーパーマーケット的な店構えで主婦層の人気を集めた。モリトミ食品店がこれに倣った。

ど、長屋風の2階建てアパートに小さな飲食店が連なる横丁街が複数存在する。街歩き定番にもなった路地裏や横丁街は、歴史的景観と見なしてよいだろう。

弘前市や藤崎町からの玄関口である元町にも古い家屋や商店が多数ある。やぶやは地元の製麺業者として貴重な存在である。沖野もち店は商品がすぐに売り切れる程の人気店だ。銘酒「初駒」で知られた佐藤酒造は、こみせを有する立派な建物が目を引く。酒造業自体は廃業となったが、NPO法人「元酒蔵の歴史的建造物群を保存・活用する会」が、屋敷とこみせを修復して活用し、貴重な建築物を後世に残すべく活躍している。

黒石市中心街の魅力

中園 裕

（県民生活文化課
県史編さんグループ主幹）

いずれも大型スーパーやデイスカウトショップでは体験できない、個人商店ならではの魅力がある。街の魅力は建物や景観だけでなく、「人」にもあると思う。

黒石温泉郷や十和田湖へと通じる旧国道102号沿いの山形町は、銘酒「清の松」の宇野酒造や「玉鶴」の黒石酒造などが屋敷を構え、長いこみせが連なっていた。現在、こみせはなくなつたが、屋敷や蔵の一部が残され当時の趣をとどめている。

歓楽街である甲徳兵衛町には横町へ抜ける路地に「よされ横丁」がある。横丁街は昭和の飲食街を象徴する景観だ。他にも有楽丁センター、甲徳センターな

ることは、地域文化の発展にとつて大きな意義がある。元紙が根を張っている。黒石温泉郷や十和田湖へと通じる旧国道102号沿いの山形町は、銘酒「清の松」の宇野酒造や「玉鶴」の黒石酒造などが屋敷を構え、長いこみせが連なっていた。現在、こみせはなくなつたが、屋敷や蔵の一部が残され当時の趣をとどめている。

近年、歴史ある街並みを活かそうと、さまざまな団体が各種の事業に取り組んでいる。取り組み側には活動を継続する熱意と努力が求められるが、地元で生活する市民が歩み寄り、理解と協力を示すことも必要である。街は色々な人々が集まり、協力し合つて形成されているからだ。事業に取り組む側はもろろんのこと、市民も街の歴史を知つて欲しい。知れば街の魅力に気がつき、理解や協力、そして実践力を生み出すからである。